

「詩の小径」句碑一覧表

(文中、敬称略)

平成27年2月現在

No.	号	年 次	本 名	碑 文	作 者 消 息
1	一	平成2年	吉 岡 秀 稔	吉備津岡辛木神社参道 詩の小径 岡山フェニックスライオンズクラブ建之	岡山市中区門田本町(岡山国際ホテル内)
2	若	平成4年	佐 藤 若 彦	赤松の 林抜ければ 四季の風	中区海吉(福吉)故 佐藤章正の二男
3	福 丸	平成2年	岡 <sup>えしろう</sup> 恵四郎	白く咲いてる花一輪に 恥じぬ女の道をふむ	故人 元 中区海吉(福吉)の住人
4	縁	〃	小 神 縁	シベリヤの 雪が解けない 老父の背中	元 中区円山(境内)の住人
5	正 恵	〃	佐 藤 正 恵	おぼろ夜は 母のぬくもり廻りみち	故人 元 中区海吉(福吉)の住人 故 佐藤章正の妻
6	章	平成元年	佐 藤 章 正	元朝や 松の緑も 輝ける	故人 元 中区海吉(福吉)の住人 「詩の小径」の代表世話人
7	梅 野		小 倉 梅 野	公の園 かわりし城跡に のこるは松の 林なりけり(皇居歌会始勅題入選記念)	故人 元 中区海吉(静観荘)の住人 (故 小倉一郎の母)
8	木 庵	平成元年	岡 崎 豊	瀬戸大橋 空の青さを 深くする	故人 元 東区豊田の住人
9	久	平成2年	難 波 <sup>ひさ</sup> 久	はらからと 神苑清めし日は遠く こし方しのび 八十路すぎけり	故人 元 中区福泊の住人 元 宮司(岡本 昇)の親戚
10	佐藤千代治	平成元年	佐 藤 千代治	かえりみて 悔ゆることなき生涯を 送らんものと 今日も努める	故人 元 中区福泊の住人
11	至 鏡	平成2年	右 田 清 美	神の井を 泊みつゝ朝の 初音きく	建立当時の宮司(岡本昇)の同級生=神職の妻。岡山市南区福富東在住。
12	恵 子	平成5年	馬 場 恵 子	朧月 砂のトンネル そのままに	中区福泊(川東)の住人

No.	号	年 次	本 名	碑 文	作 者 消 息
13	桂 花	平成5年	徳 山 喜代子	雪辻 一瞬的を 失へり	故人 元 北区弓之町の住人 No.21 徳山文之介の妻
14	はる 張 次	平成4年	田 中 張 次	ねこまでも 橋まで送る 一年生	故人 元 宮司(岡本 昇)の実父 東区君津の住人なるも係累現住なし。 No.30と同一人
15	北根博文	平成13年	北 根 博 文	二十一世紀は 夢ある農村づくりから	中区海吉(本村)の住人
16	すがえ	平成2年	石 井 すがえ	愛し子の 肌のぬくもり吾が胸に 昨日のごとく 年を経てなほ	故人 元 中区海吉(中村)の住人
17	むね 宗 治		浅 尾 宗 治	朗々と 祝詞ひびかう神庭に かがりびもえる つもごりの夜	元 宮司(岡本 昇)の高校同級生 岡山市北区伊福町在住
18	すみえ	平成2年	岡 本 寿美恵	神苑を 掃き清めてふりむけば はやも落ち葉は 秋風に舞ふ	故人 元 中区海吉(出村)(居宅なし) の住人 元宮司:岡本 昇の養母
19	北海道正子		長 田 正 子	ふるさとの 幸のたよりは瀬戸の海	元 宮司(岡本 昇)夫人和子の妹 北海道北広島市在住
20	油屋 宏	平成2年	吉 岡 宏	朝霧の 随神門より 晴れゆけり	故人 元 中区海吉(本村)住人
21	きゅう 弓 街	平成2年	徳 山 文之介	かんがらす 寒鶲 玉垣に降り 地に降りる	故人 元 北区弓之町の住人 No.13の桂花の夫
22	古酒屋	平成元年	湯 浅 嘉 定	海吉野の 吾が田に映える学び舎に 今日も楽しき 若鮎の歌	故人 元 中区海吉(本村)の住人
23	悠 風			夕映えの 空も神域 ほととぎす	No.11「至鏡」の俳弟 中区長岡在住
24	植田万楽	平成3年	植 田 昌 男	金もなく 甲斐性もなくて欲もなく 無いないづくしで それで万楽	故人 中区福泊の植田理髪店当主(泰里=故人)の父

No.	号	年 次	本 名	碑 文	作 者 消 息
25	宮 司	平成元年	岡 本 昇	初春や 神苑を掃く 音すがし	元 中区海吉（出村）（現在は居宅なし）の住人で、中区下在住。 句碑建立当時の宮司で「詩の小径」の発起人
26	蓉 子	平成3年	内 田 蓉 子	花吹雪 風の音のみ 生まれけり	中区海吉（出村）の住人
27	面海堂雲浪	平成2年	湯 浅 寿 男	花の吹雪にしつぽり濡れて 酒樽枕に 寝てみたい	故人 元 中区海吉（出村）の住人 (現在は、当時の居宅なし)
28	宮司千尋	平成3年	岡 本 千 尋	しらじらと 夜は明けそめて神垣に 響きぞわたる 御神楽の音	故人 元 中区海吉（出村）（現在は居宅なし）の住人 建立当時の宮司（岡本 昇）の養父
29	木 庵		岡 崎 豊	訪米の 旅に翔つ日や 五月晴 1972年	故人 元 東区豊田の住人 No.8 と同一人
30	岐 山	平成4年	田 中 張 次	石に字を 刻まれ石が 語りかけ	故人 No.14 と同一人
31	冬 子	〃	日 室 冬 子	さりげなく わが書く文字に父母の 命生くると ふと思ふなり	故人 元 中区倉益の住人
32	つとむ 力	平成5年	馬 場 力	親子して 見るお月さま まんまるい	故人 元宮司（岡本家）の親戚 元 赤磐市山陽町穂崎の住人
33	逸 朗	平成6年	西 村 逸 朗	百閑忌 かと酢屋の水 ごくり飲む	
34	とよの	〃	山 本 とよの	坂道の どこまでつづく 花曇	
35	一 男	〃	山 本 一 男	花と木と 八十路の空の 涙しなし	

※空欄になっている作者情報をご存知の方は、富山学区電子町内会運営委員会（石碑担当：中村晃）までご一報ください。